

地 理 B

(解答番号 ～)

1 地理情報と地図，地図の活用と地域調査に関して，問1～問4に答えよ。

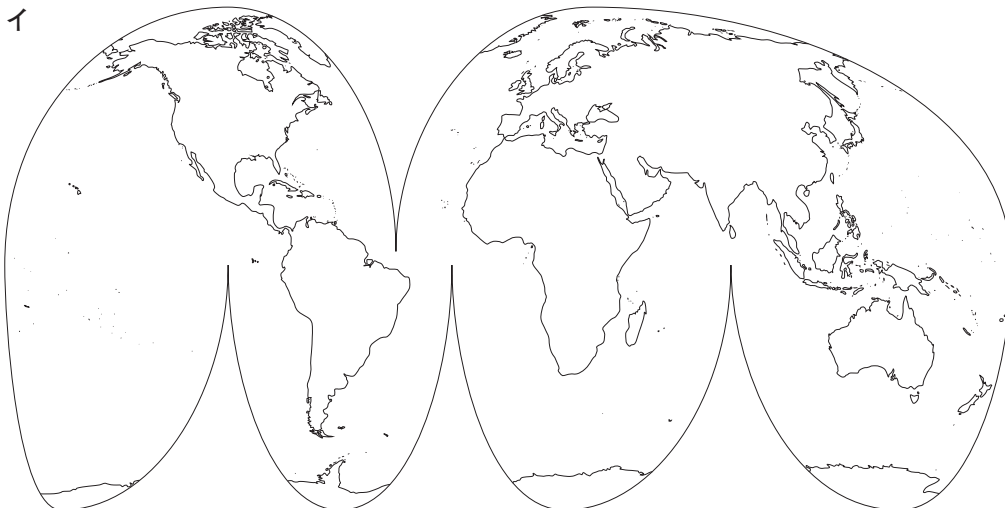
問1 あけみさんは，様々な地図投影法に興味をもち，資料1の地図を得た。これらの地図に関して，あけみさんと先生の会話文中の空欄 と に当てはまる記号の組合せとして最も適切なものを，あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

資料1

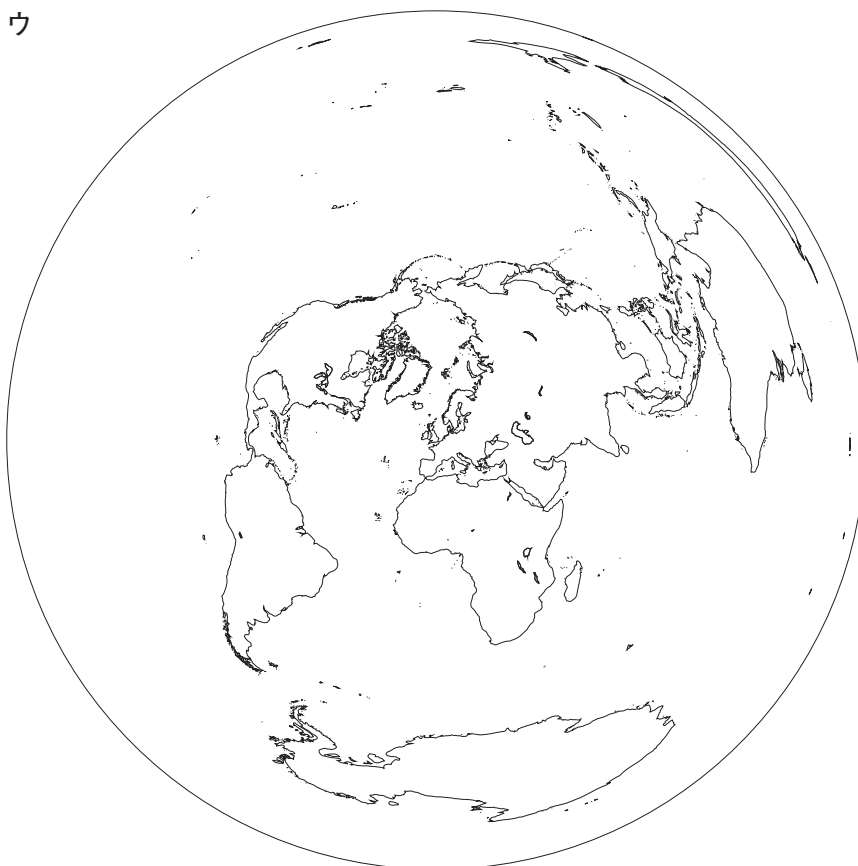
ア



イ



ウ



先 生：それぞれの地図には特徴がありますね。面積が正しく示された地図は資料１の
ア～ウのうち、どれだと思いますか。

あけみ： だと思います。

先 生：そうですね。では、資料１のア～ウのうち、ロンドンからみた東京の距離と方
位を調べる時に使用する際、適切な地図はどれでしょう。

あけみ： だと思います。

先 生：あくまで地図の中心にロンドンが位置していることが前提となりますが、その
とおりでしょうね。これらの地図は、球面上の情報を平面上に置き換えたもの
で、面積、距離と方位、角度等のすべてが正しく表されているわけではありません。
地図はその用途によって使い分けることが大事ですね。

	X	Y
①	ア	イ
②	ア	ウ
③	イ	ア
④	イ	ウ

問 2 あけみさんは、旅行でボリビアのウユニ塩湖を訪れ、その時の旅行記録を資料 2 にまとめた。資料 3 を参考にして、資料 2 中の空欄 **A** に当てはまる都市名として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **2**。

資料 2 あけみさんの旅行記録

2008 年 2 月 13, 14 日にウユニ塩湖を訪れた。

下の写真のように湖面が鏡のようになり、その不思議な光景を目の当たりにし、とても感動した。

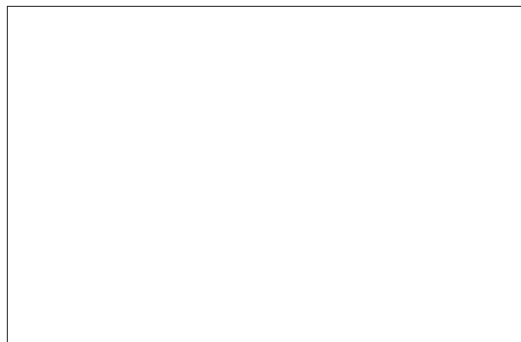
日本へ帰る際、ボリビアのラパスからの直行便がなかったため、**A** 空港を経由して乗り継ぎをした。

以下は、帰りの日程を記録したものだが、時刻はすべて現地時間である。

ウユニ塩湖の位置



写真



帰りの日程

発：2008 年 2 月 15 日 07：00 ラパス

↓ 飛行時間 14 時間

着：2008 年 2 月 15 日 15：00 **A**

↓ 待ち時間 2 時間

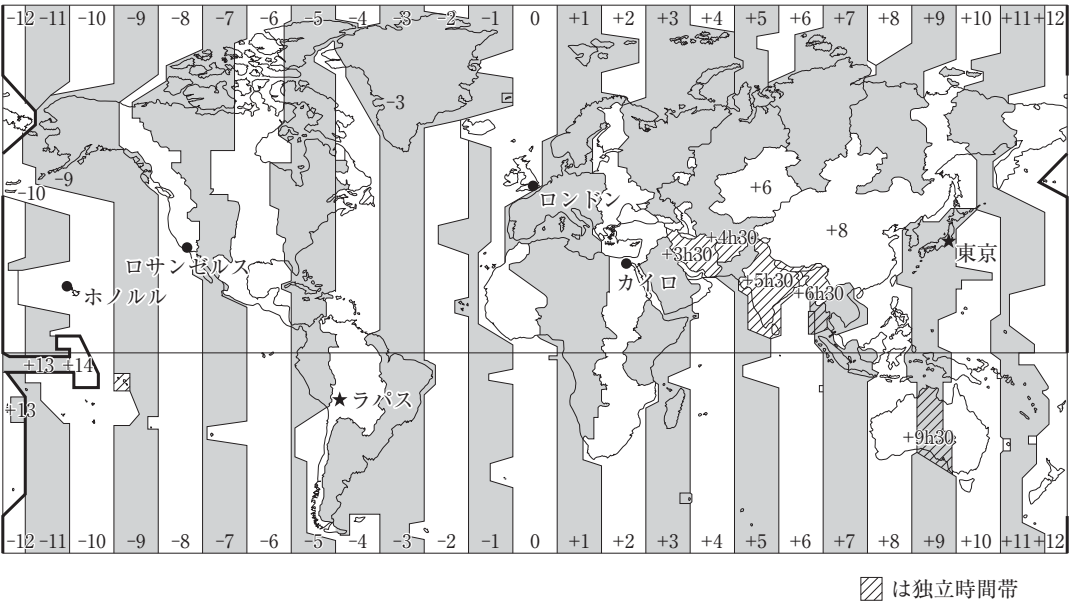
発：2008 年 2 月 15 日 17：00 **A**

↓ 飛行時間 9 時間

着：2008 年 2 月 16 日 21：00 東京

注) デイライトセービングタイム(サマータイム)は考慮しない。

資料3 世界の主な等時帯(2008年)



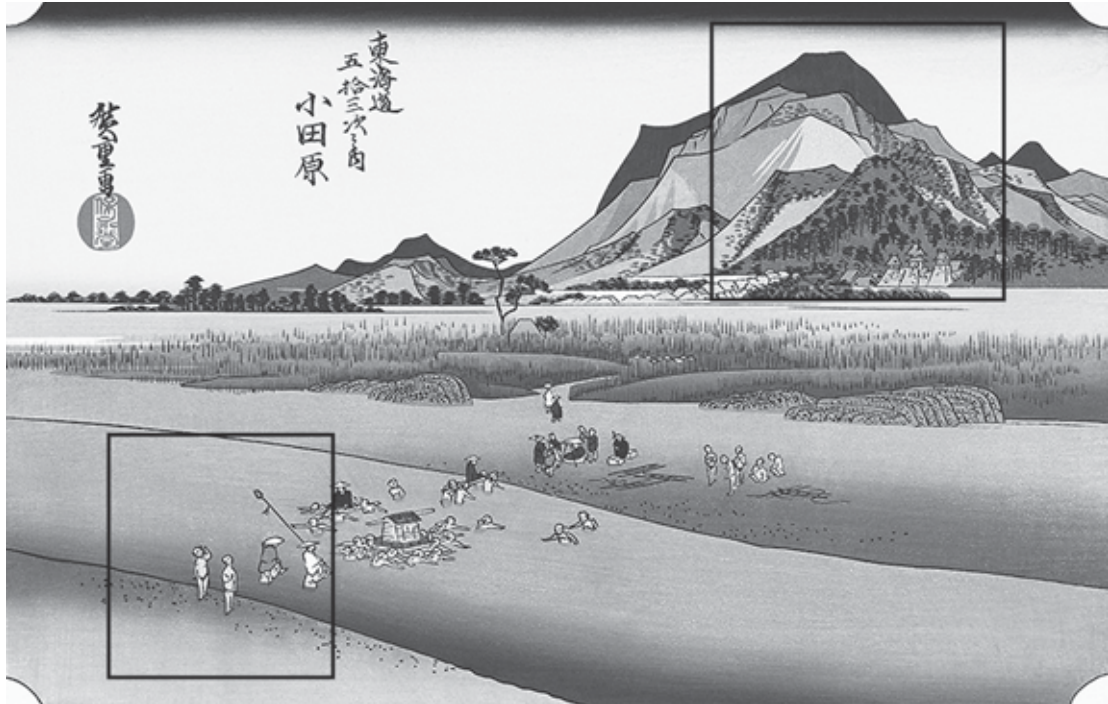
注) 資料中の数字は、グリニッジ標準時との時差を示したものである。

(『世界年鑑 2008 年』などにより作成)

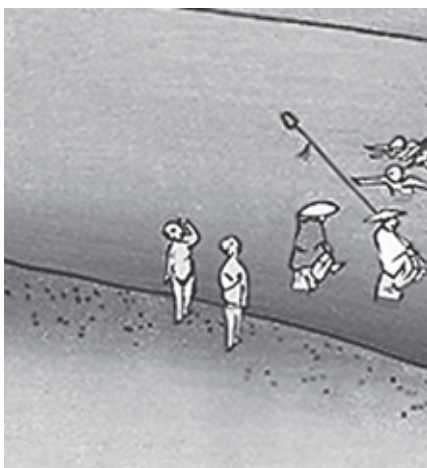
- ① ホノルル ② ロサンゼルス ③ カイロ ④ ロンドン

問 3 マサヨさんは、小田原市の歴史的な資料を調べ、資料 4～資料 6 を得た。これらの資料を基に、資料 4 を描いたと考えられる大まかな地点(●)と描いた方向(➤)の組合せとして最も適切なものを、資料 6 中の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 3。

資料 4 小田原を題材にした浮世絵



大きな川の渡し(部分)



遠景の山々と麓の城(部分)



(小田原市ホームページなどにより作成、一部改変)

資料5 神奈川県地形と小田原市の位置



B

資料6



(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「小田原」平成 9 年発行に一部加筆)

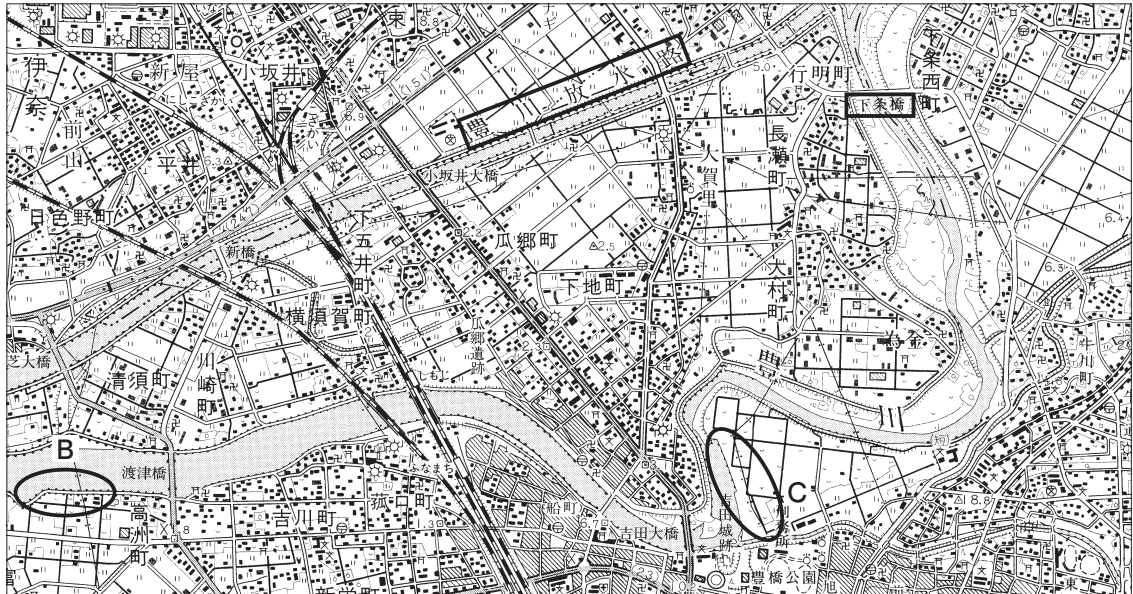
問 4 ヨシノさんは、学校周辺地域の調査を行い、資料7～資料10を得た。これらの資料に関して、ヨシノさんと先生の会話文中の空欄 **X** と **Y** に当てはまる語の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **4**。

資料7



(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「豊橋」昭和 32 年発行に一部加筆)

資料8



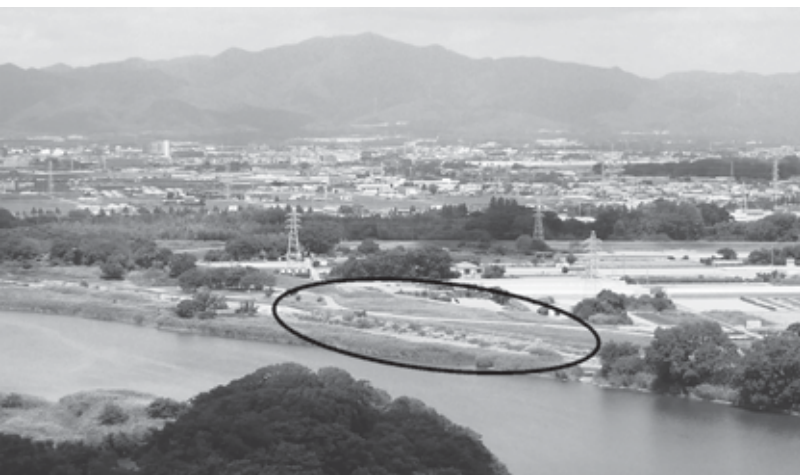
(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「豊橋」平成 7 年発行に一部加筆)

資料9 「^{かすみでい}霞堤」の機能



(国土交通省豊橋河川事務所
ホームページにより作成)

資料10 堤防の切れ目(○で示されている部分)



B

ヨシノ：過去にたびたび水害に見舞われてきた、私たちの住む地域の防災の取組について調べました。資料7と資料8を比較すると、この間に X がつくられており、これによって洪水の発生が減少したのではないかと思います。

先生：そうですね。 X が完成するまでは、資料7中のA地点のように、あえて堤防に切れ目をつくり、資料9に示されるようなしくみで洪水時の水を水田に一時的に導き、浸水被害を少しでも軽減するような工夫が各地で行われていました。このような不連続な堤防を地元では「霞堤」とよび、現在でも資料10の写真が示すように、資料8中の Y 地点に残っています。

ヨシノ：興味深い事例が、こんな身近なところにあったのですね。「霞堤」のような自然災害による被害を軽減するための工夫が、他の地域にも残っていないか調べてみようと思いました。

	X	Y
①	豊川放水路	B
②	豊川放水路	C
③	下条橋	B
④	下条橋	C